

安全運転の取り組みに必要なもの (抜粋)

(東北) K運輸(株) M・G(男性)

最近、我が会社の乗務員もいつの間にか話題の内容から年代を感じる会話が飛び交うようになってきており、どこか寂しい感じがしております。

数年前は、その乗務員も勢いがあり、体の不調など、まったく考えることなく仕事をこなしており、どちらかというと、トゲトゲしい印象をもっていました。最近では、性格も丸くなり、他の乗務員の手本的存在になり業務をしております。

高齢者は、視力も弱り、記憶も若い年齢層に比べると、どうしても劣ってしまうものですが、その点、自己分析をしており、自分で弱点を知り、業務には慎重に対応している様子が見えます。まだまだ、若い者には負けないと言ったところでしょう。

うちの会社には、キャリア30年強のベテラン運転手が数名在籍しており、ここぞという時には、力になってくれるとても頼りがいのある運転手です。

私は、運行管理者に選任されており、運行業務を任せられておりますが、ベテラン運転手からみると、まだまだ若輩者といったところなのでしょう。私自身正直、運転手への指導、教育はベテラン運転手が行ったほうが、生きた教育になるのではないだろうか？と恥ずかしながら感じておりますが、私にはひとつ強みがあります。

その強みとは、数年前に当時の社長が言った言葉が、今も、私の頭のどこかで生きており、それが強みのひとつなのです。

その言葉とは「ベテラン運転手には、山登りの心をもってもらいたい。」という言葉です。

これはどういうことかということ、若い運転手が増えてきているが、ベテラン運転手は何十年と培ってきた運転に対するノウハウや、危険に対する予知などを、若い運転手に伝えてほしいということです。

この客先や、この場所は危険なので、もし行った時は、ここに注意しないといけないなどの情報をより多くの人に伝えてほしいということと私は理解しております。

山登りで、山で出会った人たちは、「この先さらに道が険しい、何キロ先は、足場が悪いので注意してください。」などと、気をつけるように声をかけて教えてくれるので、これから向かおうとする人は、より慎重さが増し、大事故にまでには至ることのないよう大切な情報(材料)を与えてくれるのです。

先に登った人は、次に登ってくる人のことを考えてのアドバイスで、次の人のことを考えた思いやりではなからうか？と私は思っておりますが・・・。

我々、運行管理者がテキストや教本を基に乗務員への教育も確かに教育ではありますが、ベテラン乗務員が自分の経験を生かし、危険を予知した生の声を他の乗務員に伝えることこそ生きた教育ではなからうかと、私は感じております。

ベテランは次の世代にキャリアを積んで培ってきたノウハウを伝え、道を譲り、伝えられた運転手はその情報を基に慎重に対応、対処することにより、事故を未然に防ぐ。この流れこそが、無事故に対する取り組みのひとつなのではないのだろうかと思われま。

最近の業界の運転手は、運転だけが評価される時代ではありません。第1に事故を起こさない無事故が挙げられますが、それはもはや当然のことであるということです。重大事故を起こしてしまいますと、損害が大きく、勤務先への影響も出てしまい計り知れない損失が重くのしかかる時代でもあります。

運転業務は、大規模な事故発生にも影響する業務でもあります。大きな責任を背負っておりますので、以前のような運転だけの運転手では通用せず、乗務員としての安心・安全・責任を扱う責務、任務が発生致します。

我々運行管理者も乗務員も、自分が出来る事故防止に対しての最大限の取り組みを行い、特に我々運行管理者は、時には工夫して乗務員に情報を伝え、無事故に向け進んで行かなくてはならないと思っております。

連日のようにマスコミが取り上げている大型トラックの事故など、いたましい記事を目にしますが、業界に携わる経営者、運行管理者、乗務員、すべての皆さんが今、無事故に向けて自分にできることを考えて取り組んでいただきたいと思います。私も常に、山登りの考えを実行し、次に続く人のことを思い、無事故に向けて取り組んでいきたいと思っております。

すべての先輩たちや、先に歩んだ人達が、次の世代の後輩たちに長年培ったノウハウを伝えることによって無事故へ近づけるものと思っております。

私も皆さんと、無事故に取り組む一員として進んで行きたいと思っております。